



全日本MTB-XC男子エリートスタート

シクリスムエコーNo.131 2006年7月号



第9回全日本自転車競技選手権大会トラックレース 2



2006年全日本 MTB選手権大会 5



2006 TOUR de EAST JAVA 8

2006年チョンジュMBCジュニア・ロードレース 10

2006年ジュニア世界選手権大会日本代表選手団 12



ACCトラックアジアカップ2006 13

読者プレゼント 15

2008年北京オリンピックの参加資格付与制度について 15

競技大会結果 16

ロード男子エリートナショナルチーム・フランス遠征 16

2006年シクロクロス強化指定選手 16

連盟の動き 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。
<http://www.keirin.jp/>





第9回全日本自転車競技選手権大会トラックレース

7月15日と16日の2日間、天候が不安定な中、鳥取の倉吉自転車競技場に於いて、9回目を迎えるトラックレースの全日本選手権が開催された。

女子ポイントレースとマディソンは参加者が少なく残念ながらキャンセルされたが、12月のカタールでのアジア大会の選手選考も兼ね、男女99名の強豪選手によって競われた。



団体1位の強化チーム



男子チームスプリント1位の強化チーム

女子スプリント決勝、1位の篠崎(左)と2位の佃



男子スプリント1位の成田(左)と2位の北津留



男子ポイント1位の飯島誠(先頭)と2位の角(2番目)



男子ポイント1位の飯島誠(右)と3位の西谷



女子3km個抜1位の和田見



男子個抜1位の飯島規之



男子1kmTT1位の及川



女子500mTT1位の沼部

[競技結果]

第9回全日本自転車競技選手権大会
トラックレース(2006/7/15-16 鳥取・倉吉)

男子スプリント

- 1 成田 和也 強化 JPCA・JPCU福島
- 2 北津留 翼 強化 JPCA・JPCU福岡
- 3 稲垣 裕之 強化 JPCA・JPCU京都
- 4 空 位
- 5 佐川 翔吾 大阪 順天堂大学
- 6 河端 朋之 鳥取 倉吉体育文化会館

男子1kmタイムトライアル

- 1 及川 裕奨 強化 JPCA・青森 1:05.528
- 2 新田 祐大 強化 JPCA・福島 1:06.071
- 3 北津留 翼 強化 JPCA・福岡 1:07.136
- 4 屋良 朝春 沖縄 日本大学 1:08.288
- 5 坂本 貴史 青森 八戸工業高 1:08.477
- 6 城 幸弘 山梨 日本大学 1:08.514

男子ケイリン

- 1 海老根恵太 JPCA JPCU千葉
- 2 稲垣 裕之 強化 JPCA・JPCU京都
- 3 渡邊 一成 強化 JPCA・JPCU福島
- 4 東矢 昇太 熊本 中央大学
- 5 新田 祐大 強化 JPCA・JPCU福島
- 6 鈴木雄一朗 山梨 日本大学

男子4km個人追抜競走

- 1 飯島 規之 強化 JPCA・埼玉 4:54.025
- 2 内田 慶 強化 JPCA・栃木 5:05.029
- 3 川西 貴之 岐阜 日本大学 10周追抜勝
- 4 太田 貴明 京都 京都産業大 OVT
- 5 根本 哲吏 秋田 明治大学 4:55.452
- 6 我妻 敏 福島 日本大学 4:58.973

男子ポイントレース(40km)

- 1 飯島 誠 強化 JPCA・ブリヂストン 81p
- 2 角 令央奈 兵庫 鹿屋体育大学 69p
- 3 西谷 泰治 強化 愛知・愛三工業 49p
- 4 武藤 大輔 高知 高知中央郵便局 28p
- 5 普久原 奨 沖縄 ブリヂストンアカ 19p
- 6 森田 大介 和歌山 和歌山北高校 15p

男子チームスプリント

- 1 強化 成田・稲垣・及川 1:02.605
- 2 JPCA 中村・伊勢崎・武井 1:03.721
- 3 学連 川崎・佐川・内田 1:06.323
- 4 岡山 片岡・連沸・小西 1:06.558
- 5 鳥取 福井・河端・岩本 1:06.294
- 6 高体連 深谷・真船・関根 1:06.722

男子4km団体追抜競走

- 1 強化 飯島規・内田・西谷・盛 4:26.303
- 2 学連 矢代・川西・青木・小豆畑 4:33.945

- 3 高体連 坂本・須永・不破・巴 4:37.445
- 4 和歌山 松村・森田・藤田・榎本 4:40.931
- 5 JPCA 窓場・久米・岩崎・山岸 4:41.649

女子500mタイムトライアル

- 1 沼部早紀子 栃木 順天堂大学 38.178
- 2 篠崎 新純 千葉 明治大学 38.246
- 3 佃 咲江 北海道 北海商科大学 38.515
- 4 石川菜々子 香川 笠田高校 39.420
- 5 川満 佳子 熊本 千原台高校教 39.493
- 6 河端あゆみ 鳥取 鳥取短期大学 39.500

女子スプリント

- 1 篠崎 新純 千葉 明治大学
- 2 佃 咲江 北海道 北海商科大学
- 3 沼部早紀子 栃木 順天堂大学
- 4 川満 佳子 熊本 千原台高校教
- 5 河端あゆみ 鳥取 鳥取短期大学
- 6 福島 麻実 熊本 千原台高校

女子3km個人追抜競走

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学 4:04.422
- 2 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大 4:11.032
- 3 大塚 沙織 大阪 パナソニック 4:10.561
- 4 柘原 彩 熊本 千原台高校 4:14.265
- 5 村中恵美子 東京 GSヤマザキ 4:19.375
- 6 上野 左智 大分 別府商業高 4:20.622

日本航空

空で逢いましょう。

Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

2006 年全日本 MTB 選手権大会



XC男子シニアエリート1位の竹谷(先頭)と2位の野口

最悪な天候の中、7月15～17日に石川県の白山瀬女高原スキー場において、2006年全日本マウンテンバイク選手権大会が開催された。

初日は午後から、男女4X予選～決勝が行われ、男子は福富、女子は鴨下がチャンピオンに決定。

2日目はダウンヒルが行われ、併催の「白山瀬女カップ」の男女一般クラスから始まり、全日本の女子、男子シニアの予選、そして男子マスター、男子ジュニア、女子、男子シニアの決勝へと進んだ。

最終日はクロスカントリーの予定であったが、前夜からの豪雨のため会場の一部が崩れ、コースの変更をしての開催となった。やはり、一般男女クラスの終了後、男子ジュニアと男子マスターが予定より30分遅れでスタート。

その後、男子U23と女子が10～5分遅れのスタートであったが、最終番組の男子シニア/エリートについては定刻の14時にスタートした。

男子シニア/エリートでは、竹谷と野口のバトルが繰り広げられたが、やはりこの瀬女高原で2003年全日本チャンピオンとなった竹谷の勝利で幕を閉じた。

XC男子シニアエリート
独走する竹谷

XC男子シニアエリート優勝の竹谷



スタート直後のXC女子
1位の片山(左)と3位の田近



XC女子1位の片山



XC男子ジュニア竹之内のフィニッシュ



XC男子ジュニア1位の竹之内



XC男子U23、1位の山本



XC男子マスター1位の有井

[競技結果]

2006年全日本MTB選手権大会
(2006/7/15-17 石川・瀬女)

4X男子(250m)

- 1 福富 哲也 栃木 KHSJAPAN LIFE
- 2 栗瀬 裕太 大阪 MX MONGOOSE
- 3 向原 健司 大阪 Team KHS重力技研



- 4 増田 直樹 滋賀 un authorized
- 5 土井 昭 大阪 IDENTITI
- 6 青木 卓也 東京 TEAM GIANT
- 7 林 正樹 岐阜 CHRONIC
- 8 竹本 将史 埼玉 ブリヂストンアカ

4X女子(250m)

- 1 鴨下 美穂 神奈川 KHS JAPAN
- 2 末政 実緒 兵庫 大川組
- 3 飯塚 朋子 大阪 ATOMIC Racing



- 4 服部 良子 神奈川 風魔横浜
- 5 池田 恭子 東京 Team Cannondale
- 6 菅原 亮香 岩手 TEAM LAVENDER

DHシニア・リト男子(3.65km)

- 1 井手川直樹 広島 G-Cross 5:21.605
- 2 内嶋 亮 東京 G-Cross 5:32.481
- 3 柴田 幸治 神奈川 A&F 5:47.041



- 4 安達 靖 愛知 Ikuzawa 5:47.894
- 5 丸山由紀夫 愛知 Mom&Pop's 5:49.871
- 6 高橋 唯之 福島 TDC 5:56.191
- 7 金子 真吾 長野 ASTRIX 5:57.832
- 8 向原 健司 大阪 Team KHS 5:58.448
- 9 和田 良平 神奈川 INTENSE 5:59.263
- 10 青柳修一郎 東京 Specialized 6:06.134

DH女子(3.65km)

- 1 末政 実緒 兵庫 大川組 6:35.912
- 2 飯塚 朋子 大阪 ATOMIC 8:24.325
- 3 池田 恭子 東京 Cannondale 9:02.266



- 4 菅原 亮香 岩手 LAVENDER 10:57.433
- 5 尾芦 資子 東京 風魔吉祥寺 11:08.304
- 6 清水 友香 栃木 B.C.Porter 11:53.250
- 7 楳本百合子 兵庫 KOUTA 12:03.580
- 8 服部 良子 神奈川 風魔横浜 12:17.552
- 9 横山 洋子 石川 北陸女子 17:35.041

DH男子ジュニア(24.4km)

- 1 門脇 祥 新潟 Monster 5:54.136
- 2 飯田 隆彦 東京 NON MOTORIZE 7:08.545
- 3 三輪 隆文 福岡 8:04.355



- 4 三木 洋介 埼玉 YOHO材 9:17.311

DH男子マスター(24.4km)

- 1 山崎 勉 栃木 K・BROS 5:31.890
- 2 伊田井佐夫 埼玉 AYEL 5:32.416
- 3 吉田 五郎 愛知 gokuraku 5:36.935
- 4 三山 孝幸 石川 FRS 5:40.246
- 5 三輪 和弘 神奈川 MARSH 5:41.680
- 6 宮本 光司 千葉 Specialized 5:43.901
- 7 伊藤 康喜 東京 朝比奈 5:44.680
- 8 関 誠利 宮城 SEKIみちのく 5:48.980
- 9 入江 大介 京都 Think 5:50.252

- 10 有村 俊彦 神奈川 重力技研 5:50.386
- XC男子シニア・リト(42.7km)

- 1 竹谷 賢二 千葉 Specialized 1:52:15.87
- 2 野口 忍 京都 TREK 1:53:20.38
- 3 武井 亨介 茨城 FORZA 1:54:23.39
- 4 山本 和弘 長野 キャノン 1:55:18.69
- 5 松本 駿 長野 TREK 1:56:09.39
- 6 白石 真悟 大阪 シバリキガ 1:58:16.91
- 7 色川 浩樹 茨城 Specialized 1:58:50.18
- 8 門田 基志 愛媛 Specialized 1:59:32.13
- 9 山辺 誠司 埼玉 埼玉県人 1:59:57.91
- 10 宇田川聡仁 静岡 MSC 2:00:23.85

XC女子(30.5km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 TREK 1:39:44.44
- 2 矢沢みつみ 山梨 シーナック 1:44:57.17
- 3 田近 郁美 岐阜 MSC 1:46:16.85
- 4 田崎 綾 千葉 1:47:26.54
- 5 深井 薫 大阪 BMC FKI 1:48:03.58
- 6 佐々木優子 茨城 FORZA 1:48:55.95
- 7 笹本 みき 山梨 splash -1lap
- 8 田中クララ 埼玉 SY-Nak -1lap
- 9 山本 佳苗 岡山 ダックス 1: -1lap
- 10 信賀 直子 埼玉 OLDNEW -2laps

XC男子U23(30.5km)

- 1 山本 幸平 新潟 アトドア校 1:19:21.56
- 2 小野寺 健 京都 SUBARU 1:21:22.05
- 3 奥村 翔 東京 over-do 1:28:08.74
- 4 大橋 穂高 山梨 サイクルランド 1:32:35.08
- 5 鈴木龍之介 愛媛 焼鳥山鳥 1:32:52.38
- 6 高橋 勇希 東京 ナガノ 1: -1lap
- 7 杉原 卓磨 新潟 アトドア専門校 -1lap
- 8 福田 真平 神奈川 -1lap
- 9 井本 京吾 熊本 Q-MAX -1lap
- 10 平野 星矢 新潟 アトドア専門校 -1lap

XC男子ジュニア(24.4km)

- 1 竹之内 悠 京都 Panasonic 1:08:38.84
- 2 伊澤 優大 滋賀 BeeClub 1:13:17.12
- 3 小森 亮平 広島 マツダ 1:14:03.61
- 4 霜山 誠一 福島 1:14:45.56
- 5 野田 拓司 佐賀 シイハリス 1:16:13.55
- 6 横澤 太 愛知 岡崎城西 1:19:09.40
- 7 堀 雄己 岡山 チームエーブ -1lap
- 8 森田 和宏 熊本 八代農高校東 -1lap
- 9 井本 朋慶 熊本 八代農高校東 -2laps
- 10 橋本 龍聖 熊本 TEAM GIANT -2laps

XC男子マスター(24.4km)

- 1 有井 雄二 東京 ヘルシタ 1:10:38.26
- 2 武藤 常雄 愛知 TARGET 1:11:20.55
- 3 三上 和志 埼玉 3UP 1:12:28.77
- 4 澤田 泰征 静岡 VOLCA 1:12:34.00
- 5 山本 朋貴 滋賀 ストラダ 1:12:37.64
- 6 宮本 光司 千葉 Specialized 1:12:41.74
- 7 光山 明 茨城 FORZA 1:13:07.10
- 8 代田 和明 千葉 WING 1:13:58.43
- 9 世田 仁 東京 妙 1:13:59.39
- 10 村田 隆 長野 快レシガ 1:14:58.50



2006 TOUR de EAST JAVA

飯島が区間2賞! 田代が総合3位!



第1ステージ

Sidoarjo ~ Mojoseri 185.4km

第2回目となるTour de East Javaは、インドネシア東部の都市スラバヤ周辺で開催。10時のスタート時点でも気温は30度以上あり、選手は日陰で待機。

4kmほどパレード後正式スタートが切られる。スタートから集団の動きは激しく、日本チームもアタックに反応しながら集団前方でレースを展開。

数名の選手が逃げるが、どれも決定的な逃げにつながらない。70km地点で集団のペースも上がり、アタックが決まりかけている場面で田代がパンク。

今回のレースは、地元タクシーとそのドライバーがチームカーを運転する事になった。なれない運転にパンクから復帰できない状況になり、ドライバーを交代させてもらい田代は無事復帰した。レースの状況は変わり、先頭は飯島、イラン大学チーム、Tonton (Wizmirak)、Yakovlev (Polygon) の4名と、20名ほどの第2グループ、30名ほどの第3グループに分かれていたが、先頭以外は集団となり、タイム差は3分ほど。4名の逃げ集団は第3カテゴリー上り頂上付近でYakovlevがメカトラブルで脱落。3名となった集団では、イラン大学が先頭を引かない状態。状況を判断した飯島は、アタックして2名と1分、集団との差は3分になり、飯島の独走状態になる。ゴールまでの距離が20kmを過ぎた時点で、イラン、インドネシアチームが先頭を引き始め後続との差は2分弱。5kmで15秒タイム差を詰められている。飯島にはラスト5kmからペースアップできるペース配分を無線で伝える。ラスト5km地点で1分15秒。単純に計算して追い付かれない状態になったがレースはまだ分からない。ラスト

3kmでチームカーは後ろのメイン集団に下がる指示が出される。

ラスト1キロを過ぎた時には、1分ほどのタイム差で通過。飯島はそのまま単独でゴール。リーダーとなり、UCIポイントも獲得した。

第2ステージ

Trowulan ~ Mojokeruto 169km

今日のステージは、レース中盤にカテゴリー1の上りがある。

日本チームは、飯島のリーダーを守るため、チーム全体の役割と動きを決めた。スタートしてから3名のインドネシア人を逃がして集団のペースを安定させ、日本チームとシマノのメンバーで先頭交代。2分までタイム差を開かせ、上りでタイム差を詰める作戦。110km過ぎから始まる上りの勾配は意外と急坂で遅れる選手が続出。山岳ポイントを通過する時点で、4名に先行されていたが下りを利用して4名を吸収。ラスト40kmを日本チームで先頭をコントロール。

25名の先頭グループのゴールスプリントは、飯島が先行。最後は山本(シマノ)が2位でゴール。飯島は集団ゴールしてリーダージャージを守った。

第3ステージ(クリテリウム)

Mojokerto 64km(1.6km×40)

連日天候には恵まれているが、とにかく暑く選手の消耗も激しくなっている。コースは昨日のゴール地点が、クリテリウムの会場となる。

今日も日本チームは、積極的に集団をコントロールして飯島のリーダーを守る走りをする。

1周パレード走行して、レーススタート。日本チームは、前半から集団前方でチームでローテーションしながら他のチームにアタックされないようにペースを作りながら、飯島の力を温存。

40週の周回中、10周に1回ポイント周回があり、ポイントジャージを狙う選手のチームがポイント周回近くになると、ペースアップする時は、待機しながらレースの流れを見ている。とにかくチームの列が乱れないように、選手は

集団前方をキープしている。普段は所属チームが違うが、チームワークは日々良くなり、動きも良い。

ラスト10周を過ぎたあたりからペースを上げ、ラスト5周から飯島がアタックして、ステージ優勝狙う作戦。予定通りラスト5周を通過するあたりでペースアップして飯島がアタック。集団から4人で抜け出し、ラスト2周1名が千切れ、後続との差も15秒ほどに開く。最後は3名のゴール勝負で飯島が2位でゴール。優勝したのは、インドネシアのKaswantoが優勝。

飯島は、ライバル選手に差をつけてゴールして、リーダーを守った。

第4ステージ

Mojokeruto ~ Bromo 133.3km

今日のステージで総合成績がすべて決まるほど、過酷な山頂ゴールのステージとなる。ラスト30kmが上り区間になり、10%以上の勾配が不規則に続き、最後の5kmは20%の上りが続くコースは、0mから2,232mがゴール地点となる。ほとんどの選手が27Tもしくは29Tのギヤを選択していた。

スタート地点のMojokertoから5.4kmはパレード走行になり、集団はゆっくり進む。沿道の観客の応援が途切れることなく続いている。

後半の上りを考えると、どのチームも動く様子が無い事が予想されるが、日本チームは積極的に攻めるレース展開を考えた。今日もスタートから激しいアタックが開始されるが、重要な逃げはイラン、インドネシアの有力チームが、反応してくる。集団のスピードが緩んだ時に2人のインドネシア人がアタックして、1分30秒ほどリード。この2人はトップから14分遅れの選手なので、集団はペースダウン。日本チームは、攻撃を仕掛けてペースアップした所で少人数で抜け出す作戦を指示。リーダーの飯島がアタックして、山本と抜け出し、逃げている2人に合流して、山岳の上りに入った。

緩やかな上り口から徐々に勾配がきつくなり、10%以上の上りが階段状に続き、リズムの取りにくい上りだ。チー

ムカーが飯島に追い付いた直後、先頭は飯島が独走。後続は1分差で、田代、長沼を含む有力選手が近づいている。

ラスト20kmを過ぎたあたりで、田代の集団は飯島に追い付き、独走で走っていた飯島はそのまま後方に。6名の集団から、Mizbani、Askari(共にPetrochemi)、Tontonが抜け出し、田代、長沼は2人で前を追走。

ラスト10kmから更に勾配はきつくなり、先頭はMizbani、2分30秒遅れでAskari、Tontonの2名。長沼が干切れ、田代がこの2名に追い付き更にアタック。Tontonが遅れ、Askariが田代に追い付くが、チームメイトのMizbaniが先行しているため、後方待機。ラスト4kmからAskariがアタックして、先頭からMizbani、Askari、田代、Tontonの順でラスト2kmを通過。

ここからゴールまで更に勾配がきつくなり、蛇行しながら上りを登るほどだ。最初にゴールに飛び込んだのは、山岳を得意とするMizbaniが優勝。田代は3位でゴール。後続から追い上げた真鍋も7位。長沼も12位と大健闘。上り手前からアタックして、有力チームの動き狂わせ、上りに強い田代、真鍋、長沼などの力を温存させる走りをした、飯島の走りはすばらしかった。

第5ステージクリテリウム)

Surabaya 52.8km(1.1km×48)

最終ステージは、スラバヤの中心地を走るクリテリウム。

最終日は、ステージ優勝狙う作戦で前半から積極的に攻撃を仕掛ける。スタートからハイペースでレースが展開されるが、リーダーチームは集団をまとめる動きをしている。レース中盤、飯島、柿沼を含む9名が20秒ほどリードしながらレースは進む。リーダーチームは15~20秒の差を保ちながら、集団をコントロールしている。逃げグループもペースが上がらないので、柿沼がアタックして動きを作り、吸収されたところで飯島がアタックして新たに4名の逃げグループを作る。柿沼は集団に吸収され、そのまま日本チームが全員で先頭付近をキープして、集団のペースをコントロール。

ラスト5周を残す所で、4名の逃げから飯島がアタック。10秒差をキープしながら、最後の力を振り絞り、ラスト2

周更にペースアップした飯島。後続は最後まで日本チームが先頭付近をキープして追撃のペースを乱し、最終コーナーを単独で曲がる飯島に、5秒ほどで大集団が迫るが最後は両手を上げて、今大会2回目のステージ優勝を飾った。

総評

今回の大会は、ベテラン4名(飯島、田代、真鍋、柿沼)に若手2名(飯野、長沼)のチーム編成。

初日独走で優勝してリーダーになった飯島を4日間守り、勝負となる第4ステージの山岳は飯島自らアシストの走りをして、山岳に強い選手の走りを助けた。総合成績は下がってしまったが、最後はチームワークの強さをアピールして飯島はステージ優勝する事が出来た。連日、日本チームの動きが良く、選手個々の得意な走りを生かし、好成績に結び付ける事ができた。(藤野 智一)

[競技結果]

2006 サルバト・イ・ストジャバ(UCIアジアツアー-2.2)
(2006/7/5-9 インドネシア・ジャバ島)

個人総合成績

1	MIZBANI Iranag Ghader	IRI/PCT	15:36:27
2	ASKARI Hosien	IRI/PCT	15:38:08
3	田代 恭崇	JPN	15:39:55
10	長沼 隆行	JPN	15:48:53
19	飯島 誠	JPN	15:54:20
23	飯野 嘉則	JPN	15:57:33
26	真鍋 和幸	JPN	15:58:36
27	阿部 良之	SKS	16:00:03
38	山本 雅道	SKS	16:11:48
41	柿沼 章	JPN	16:13:12

団体総合成績



1	Petrochemi Cycling Team	46:57:49
2	Japan National Team	47:12:05
3	Azad University Cycling Team	47:29:45

第1ステージ(185.4km)

1	飯島 誠	JPN	4:10:12
2	山本 雅道	SKS	4:11:01
3	SAMAI samai	INA/WIT	4:11:01
35	真鍋 和幸	JPN	4:11:01
36	柿沼 章	JPN	4:11:01



39	田代 恭崇	JPN	4:11:01
42	阿部 良之	SKS	4:11:01
49	飯野 嘉則	JPN	4:11:01
50	長沼 隆行	JPN	4:11:01
51	廣瀬 佳正	SKS	4:11:01
57	辻 貴光	SKS	4:11:01

第2ステージ(169.3km)

1	ZARGARI Amir	IRI/AZU	4:26:27
2	山本 雅道	SKS	4:26:27
3	CHAN Chun Hing	HKG/PUR	4:26:28
8	飯島 誠	JPN	4:26:29
11	飯野 嘉則	JPN	4:26:30
18	田代 恭崇	JPN	4:26:32
24	長沼 隆行	JPN	4:26:33
39	柿沼 章	JPN	4:30:35
55	真鍋 和幸	JPN	4:40:19
56	阿部 良之	SKS	4:40:20
	辻 貴光	SKS	DNF
	廣瀬 佳正	SKS	DNF

第3ステージ(64km)

1	Kaswanto	INA/JTM	1:27:55
2	飯島 誠	JPN	1:27:55
3	HASHEMZADHE Sirous	IRI/AZU	1:27:57
8	山本 雅道	SKS	1:28:06
13	田代 恭崇	JPN	1:28:06
14	阿部 良之	SKS	1:28:06
28	長沼 隆行	JPN	1:28:36
35	飯野 嘉則	JPN	1:28:36
37	柿沼 章	JPN	1:28:36
47	真鍋 和幸	JPN	1:28:36

第4ステージ(133.3km)

1	MIZBANI Iranag Ghader	IRI/PCT	4:20:45
2	ASKARI Hosien	IRI/PCT	4:22:49
3	田代 恭崇	JPN	4:24:33
7	真鍋 和幸	JPN	4:28:48
9	阿部 良之	SKS	4:30:45
12	長沼 隆行	JPN	4:32:56
29	飯島 誠	JPN	4:40:27
30	飯野 嘉則	JPN	4:41:36
44	柿沼 章	JPN	4:53:09
47	山本 雅道	SKS	4:56:34

第5ステージ(52.8km)

1	飯島 誠	JPN	1:09:50
2	ZARGARI Amir	IRI/AZU	1:09:53
3	HARYANTO Dwi	INA/BKC	1:09:53
11	真鍋 和幸	JPN	1:09:53
17	山本 雅道	SKS	1:09:53
27	飯野 嘉則	JPN	1:09:53
30	柿沼 章	JPN	1:09:53
42	田代 恭崇	JPN	1:09:53
43	長沼 隆行	JPN	1:09:53
47	阿部 良之	SKS	1:09:53

2006年チョンジュMBCジュニア・ロードレース

高体連選抜チームが団体1位! 日本チームは団体4位!



今年のチョンジュMBC国際ステージロードレースは6月8日～16日まで隣国の大韓民国を舞台にして開催された。今年の大きな特徴はJCFジュニアナショナルチーム6名に加えて、ジュニアの大多数を担う高体連から自費参加ながら代表1チームを参加させ、計2チームでの参加であったことであった。更に昨年まで7ステージの大会が本年は9ステージにアップされ、日本ジュニア選手にとって過酷な要件が加味された。しかし、この大会への参加は一人でも多くの選手に海外ステージレースを経験させることにより、日本ジュニア層の中長距離選手をレベルアップさせる重要な位置づけとなると確信している。

6月8日 第1ステージ

Cheong Ju ~ Jeon Ju 107.5km
「伊藤まさかの不運な落車」

ジュニアチームのエース伊藤がスタート直後5分で右折時に路面の凹凸にハンドルを取られ、バランスを失い落車。顔面から路面にたたきつけられ、唇を5針縫うケガに見舞われた。ゴールスプリントでの位置取りと仕掛けタイミングが選手たちには難しく、19名での先頭集団で高体連選抜チームの内間が5位、初山が7位、JCFチーム竹之内が14位であった。

6月9日 第2ステージ

Jeon Ju ~ Gwang Ju 99.0km

前日、負傷した伊藤も一時緊急帰国も余儀なくされたが思ったほか回復が早く30分のタイムペナルティーで走行を許可された。コースは前日より短く、ほぼ平坦路、日本人はジュニアチーム・高体連チームともに果敢なアタックを仕掛け、積極的に責めるがカザフスタン・韓国チームの追撃はなかなかかわせない。結果的にゴールスプリントに

持ち込まれ、寺垣10位、内間11位、竹之内13位、松井14位であった。集団から大きく離脱する日本人選手はおらず、力的には互角がそれ以上である。

6月10日 第3ステージ

Gwang Ju ~ Gwang Yang 90.2km

結果は相変わらず調子の良い、内間が4位、吉田10位、竹之内22位であった。選手持参の軽量コンポジットリムは、速いスピードで凹凸のある路面を駆け抜けると衝撃や振動で破損が目立った。スペアホールを両チーム合わせ10本持参したが先が心配であった。

6月11日 第4ステージ

Gwang Yang ~ Ma San 103.5km

「石倉無念のゴール前落車」

大学生ジュニア参加選手は石倉、鶴川であるが、石倉がゴール100m前先頭にいながら他の選手と接触し落車病院に搬送された。痛みを訴えていたが本人達の強い希望で翌日もレースを続行させた。レースは平坦路90名のゴール勝負で寺垣13位、内間15位、越海が30位であった。

第4ステージ終了時の個人総合であるが内間がトップと14秒差の総合5位、竹之内が29秒差10位、団体では高体連代表チームが2位、JCFチームは8位であった。

6月12日 第5ステージ

Chang Won ~ Ul San 83.8km

「日本待望の初メダル、内間の勢いはとまらない」

今回初の山岳を多く含むコース、残り約8kmが上りでゴールという設定。上りに入るまで数名の逃げを許していたが上りに入るとゴールまでの距離を計算し、再度、逃げをうった10名の集団に内間・吉田が含まれているという無線を聞き期待が膨らんだ。ゴール数kmで韓国人選手が集団を振り切ったが、2位争いの勝負で内間が抜け出し2位、集団勝負で吉田が4位と大健闘した。個人総合で内間が3位、初山が4位、竹之内8位、吉田9位と徐々に順位をあげ、団体で高体連選抜1位、JCFチーム4位と順位を上げた。

6月13日 第6ステージ

Ul San Criterium 46.4km

クリテリウムの試合方法は距離でな



く、スタート50分後に2.9kmを3周でゴールする方法で、スピードのある巴が有利かと思われた。日本人選手も序盤、後方待機であったが徐々に順位を上げていき残り2周で巴が先頭集団で通過、しかし、ラスト1周で韓国選手にかわされ同チームの選手が1～2位を占めた。優勝選手はMTBのエリートを含む、MTBの韓国チャンピオンであり指導者も元MTBチャンピオン。韓国選手の下りの速さ、ハンドリングの良さはこの辺に理由があるかも知れない。内間13位、巴30位、寺垣31位、他の選手も集団でゴールした。不安視された落車事故もなく終了した。

6月14日 第7ステージ

Ul San ~ Po Hang 80.0km

「伊藤の復活、ジュニアチーム初のメダル」

距離が急遽予定より10km短くなり、しかも山岳部がカットされるなど山岳を得意とする日本チームにとっては残念な結果である。スタート後、30km地点で松井の落車、腕を打撲したらしいが集団に追いつけずにDNF。砂だまりのあるコーナーで石倉が2度目の落車をしてしまった。懸命に追いかけるが無念のリタイヤとなった。40km地点で伊藤がアタックを仕掛けた。伊藤は徐々に自信をつけ、単独で追いかけて6名のグループで集団の差を広げる。2名が脱落し4名でのゴールスプリントで伊藤3位、伊丹4位、約1分遅れながら14位で寺垣が続く。JCFチームは団体3位に浮上した。

6月15日 第8ステージ

Po Hang ~ Gim Cheon 107.3km

ステージも終盤を迎え残るステージは2ステージとなった。選手は疲れてはいるが言葉の通じる12名の選手達は

レース以外では和気藹々、レースの戦略としては高体連チームの総合優勝、ジュニアチームも伊藤・石倉の落車があったがチームとしての上位入賞を目指すことにした。スタート時は相変わらず後方からのスタートで、チャンスを伺い前でアタックを繰り返す展開。途中、5名の集団が抜け出し集団を引き離しにかかっている。ジュニアのため無線の使用は禁止されており、レースの情報はチームからの給水時が頼りである。54km地点で伊藤がコミセールに合図し、チームカーを呼んだ。給水とともに無線からのレース情報を伝え、集団へ復帰した。

20km地点で2kmの緩やかな登りが3回、91km地点で逃げ集団はメイン集団へ吸収された。またもゴール勝負となりカザフスタン選手が集団を7秒離し優勝、大集団でのゴール勝負であるが高体連チーム寺垣が11位、松井26位、伊藤34位であった。この時点で高体連選抜チーム総合1位、JCFチーム3位、4位にカザフスタンチーム。1位と2位は3分29秒差、3位と4位は25秒差と逼迫している。逃げが決まれば逆転も充分にありうる。最終ステージまで油断は出来ない。

6月16日 第9ステージ

Gim Cheon ~ Cheong Ju 128.1km

いよいよ最終ステージを迎える。レースは今ステージ一番の長丁場であり、給水も2回まで認められた。日本人選手団も含め、最終レースで総合順位と総合チーム順位を意識した展開が続いた。集団の中で激しいアタックが繰り返されるが成功しない。ステージレースは参加した選手が個別に勝ちを狙うだけでは結果的にチームプレーにやられてしまう。レースも終盤にかかり、8名の集団がスパート、その中には越海も含まれているが総合順位でJCFチームと3位を争っているカザフスタンチームも1名含まれている。最終ステージ、ゴール予定時刻は12時近くで、街のメインストリートを走る選手団はコミセールカーとバイクに完全にリードされながらフィニッシュを迎えた。ゴール勝負で越海は7位であった。他日本人選手は内間16位、寺垣21位であり、JCFチームは集団ゴール。カザフスタンチームに逆転をされ、最終チーム順位は、1位高体連選抜チーム、2位

Eojeongbu high School、3位争いは14秒差でカザフスタンチームの逆転3位、4位JCFチームであった。20チーム、120名での出走は最終段階で17チーム92名の完走者で847.4kmの幕を閉じた。

(監督 折本 裕樹 抜粋)



[競技結果]

2006年 3037 MBCジュニアロードレース
(2006/6/8-16 大韓民国)

個人総合成績

1 Kim Goo Hyeon	Bucheon	20:26:41
2 Jang Chan Jae	Eojeongbu	20:27:26
3 内間 康平	高体連選抜	20:27:30
4 初山 翔	高体連選抜	20:27:55
10 越海 誠一	高体連選抜	20:29:31
11 伊丹 健治	日本代表	20:29:38
12 竹之内 悠	日本代表	20:29:47
13 吉田 隼人	高体連選抜	20:30:27
26 寺垣慎太郎	高体連選抜	20:33:06
41 巴 直也	日本代表	20:35:21
50 伊藤 雅和	日本代表	21:00:09
53 松井 響	高体連選抜	21:03:06
54 鶴川 大輝	日本代表	21:03:50

団体総合成績

1 日本高体連選抜チーム	61:24:47
2 Eojeongbu高校チーム	61:28:16
3 カザフスタン代表チーム	61:28:52
4 日本代表チーム	61:29:38

第1ステージ 6/8 (107.5km)

1 Jang Chan Jae	Eojeongbu	2:32:21
2 Jeong Chung Kyo	Yangyang	2:32:25
3 Lee Gyeong Ho	Yangyang	2:32:27
5 内間 康平	高体連選抜	2:32:31
7 初山 翔	高体連選抜	2:32:31
14 竹之内 悠	日本代表	2:32:31
24 石倉 龍二	日本代表	2:35:18
25 巴 直也	日本代表	2:35:18
28 伊丹 健治	日本代表	2:35:18
43 松井 響	高体連選抜	2:35:18
71 寺垣慎太郎	高体連選抜	2:35:18
72 吉田 隼人	高体連選抜	2:35:18
97 越海 誠一	高体連選抜	2:35:18
101 鶴川 大輝	日本代表	2:35:18
伊藤 雅和	日本代表	DNF

第2ステージ 6/9 (99km)

1 Seo Joon Yong	Donghwa	2:18:11
2 Kim Young Wook	Ulsan Nongso	2:18:11
3 Jang Chan Jae	Eojeongbu	2:18:11
10 寺垣慎太郎	高体連選抜	2:18:11
11 内間 康平	高体連選抜	2:18:11
13 竹之内 悠	日本代表	2:18:11
14 松井 響	高体連選抜	2:18:11
33 巴 直也	日本代表	2:18:11
54 初山 翔	高体連選抜	2:18:11
57 越海 誠一	高体連選抜	2:18:11
60 伊丹 健治	日本代表	2:18:11

66 伊藤 雅和	日本代表	2:18:11
69 鶴川 大輝	日本代表	2:18:11
73 吉田 隼人	高体連選抜	2:18:11
石倉 龍二	日本代表	DNF

第3ステージ 6/10 (90.2km)

1 Kim Goo Hyeon	Bucheon	2:22:06
2 Lee Jin Yong	Mokcheon	2:22:06
3 Yoo Gi Hong	Gapyeong	2:22:06
4 内間 康平	高体連選抜	2:22:06
10 吉田 隼人	高体連選抜	2:22:06
22 竹之内 悠	日本代表	2:22:21
35 寺垣慎太郎	高体連選抜	2:22:21
37 石倉 龍二	日本代表	2:22:21
46 松井 響	高体連選抜	2:22:21
48 初山 翔	高体連選抜	2:22:21
73 越海 誠一	高体連選抜	2:22:21
76 伊丹 健治	日本代表	2:22:21
80 鶴川 大輝	日本代表	2:22:21
86 伊藤 雅和	日本代表	2:22:21
107 巴 直也	日本代表	2:22:21

第4ステージ 6/11 (103.5km)

1 Seo Joon Yong	Donghwa	2:24:07
2 Jo Yong Hyeon	Changwon	2:24:07
3 Shin Dong Hyeon	Miwon	2:24:07
13 寺垣慎太郎	高体連選抜	2:24:07
15 内間 康平	高体連選抜	2:24:07
30 越海 誠一	高体連選抜	2:24:07
33 吉田 隼人	高体連選抜	2:24:07
35 巴 直也	日本代表	2:24:07
40 伊藤 雅和	日本代表	2:24:07
47 松井 響	高体連選抜	2:24:07
50 鶴川 大輝	日本代表	2:24:07
62 伊丹 健治	日本代表	2:24:07
68 初山 翔	高体連選抜	2:24:07
88 竹之内 悠	日本代表	2:24:07
90 石倉 龍二	日本代表	2:24:07

第5ステージ 6/12 (83.8km)

1 Kim Goo Hyeon	Bucheon	2:11:19
2 内間 康平	高体連選抜	2:11:54
3 Negembelev Kirill	Kazakhstan	2:11:58
4 吉田 隼人	高体連選抜	2:11:58
7 伊丹 健治	日本代表	2:11:58
9 初山 翔	高体連選抜	2:11:58
10 越海 誠一	高体連選抜	2:11:58
12 伊藤 雅和	日本代表	2:12:33
21 竹之内 悠	日本代表	2:13:50
28 松井 響	高体連選抜	2:14:22
29 寺垣慎太郎	高体連選抜	2:14:22
30 鶴川 大輝	日本代表	2:14:31
43 巴 直也	日本代表	2:15:12
石倉 龍二	日本代表	DNF

第6ステージ 6/13 (46.4km)

1 Seo Joon Yong	Donghwa	1:00:59
2 Gong Tae Min	Donghwa	1:00:59
3 Shin Dong Hyeon	Miwon	1:00:59
13 内間 康平	高体連選抜	1:00:59
30 巴 直也	日本代表	1:00:59
31 寺垣慎太郎	高体連選抜	1:00:59
48 松井 響	高体連選抜	1:00:59
53 伊藤 雅和	日本代表	1:00:59
69 越海 誠一	高体連選抜	1:00:59
71 伊丹 健治	日本代表	1:00:59
77 竹之内 悠	日本代表	1:00:59
79 初山 翔	高体連選抜	1:00:59

81	吉田 隼人	高体連選抜	1:00:59
82	鷺川 大輝	日本代表	1:00:59
100	石倉 龍二	日本代表	1:00:59
第7ｽｰﾌﾟ 6/14 (80km)			
1	Seo Joon Yong	Donghwa	1:49:33
2	Jeong Chung Kyo	Yangyang	1:49:33
3	伊藤 雅和	日本代表	1:49:33
4	伊丹 健治	日本代表	1:49:33
14	寺垣慎太郎	高体連選抜	1:50:37
25	内間 康平	高体連選抜	1:50:37
48	越海 誠一	高体連選抜	1:50:37
68	竹之内 悠	日本代表	1:50:37
78	鷺川 大輝	日本代表	1:50:37
80	吉田 隼人	高体連選抜	1:50:37
87	初山 翔	高体連選抜	1:50:37
91	巴 直也	日本代表	1:50:37
	石倉 龍二	日本代表	DNF

	松井 響	高体連選抜	DNF
第8ｽｰﾌﾟ 6/15 (107.3km)			
1	Chumakov Roman	Kazakhstan	2:49:22
2	Yoo Gi Hong	Gapyeong	2:49:29
3	Seo Joon Yong	Donghwa	2:49:29
11	寺垣慎太郎	高体連選抜	2:49:29
26	松井 響	高体連選抜	2:49:29
34	伊藤 雅和	日本代表	2:49:29
42	内間 康平	高体連選抜	2:49:29
44	越海 誠一	高体連選抜	2:49:29
72	吉田 隼人	高体連選抜	2:49:29
73	鷺川 大輝	日本代表	2:49:29
78	初山 翔	高体連選抜	2:49:29
79	伊丹 健治	日本代表	2:49:29
80	竹之内 悠	日本代表	2:49:29
81	巴 直也	日本代表	2:49:29
	石倉 龍二	日本代表	DNF

第9ｽｰﾌﾟ 6/16 (128.1km)			
1	Shin Dong Hyeon	Miwon	2:56:31
2	Lee Gi Chang	Bucheon	2:56:31
3	Kim Hyeon Seok	Donghwa	2:56:31
7	越海 誠一	高体連選抜	2:56:31
16	内間 康平	高体連選抜	2:57:42
21	寺垣慎太郎	高体連選抜	2:57:42
24	吉田 隼人	高体連選抜	2:57:42
27	松井 響	高体連選抜	2:57:42
36	竹之内 悠	日本代表	2:57:42
48	巴 直也	日本代表	2:57:42
53	伊藤 雅和	日本代表	2:57:42
58	初山 翔	高体連選抜	2:57:42
73	伊丹 健治	日本代表	2:57:42
-	鷺川 大輝	日本代表	3:28:17



2006チョンジュMBCジュニアロードレース日本代表選手団

大会名 2006チョンジュMBCジュニアロードレース 開催場所 大韓民国
 大会期間 2006年6月8日～16日 派遣期間 2006年6月6日～17日
 代表選手団
 監督 折本 裕樹 (JCFジュニア強化育成部会部会員)
 コーチ 堤谷 孝章 (JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
 選手 竹之内 悠 (立命館宇治高校)・伊藤 雅和 (法政大学第二高校)・伊丹 健治 (前橋育英高校)
 巴 直也 (法政大学第二高校)・鷺川 大輝 (立命館大学)・石倉 龍二 (日本大学)

2006年ジュニア世界選手権大会日本代表選手団

大会名 2006年ジュニア世界選手権大会
 開催場所 ベルギー(トラック:ゲント、ロード:スパ・フランコルシャン)
 大会期間 2006年8月5日～13日(トラック:8月5日～8日、ロード:8月10日～13日)
 派遣期間 トラック:7月30日～8月10日、ロード:8月7日～15日
 代表選手団
 団長 岡田 行雄 (JCF常務理事) 監督 福田 公生 (JCF強化コーチ)
 コーチ TR:折本 裕樹 (JCFジュニア強化育成部会部会員) RR:上野 孝 (JCFジュニア強化育成部会支援スタッフ)
 総務 横田 恭 (JCF選手強化部)
 TR選手 坂本 貴史 (青森)・佐渡 空史 (千葉)・関根 彰人 (福島)・松川 高大 (熊本)・須永 優太 (福島)・伊藤 雅和 (神奈川)
 RR選手 篠原 力也 (香川)・畠田 義明 (埼玉)・内間 康平 (沖縄)

末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様に、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

ACCトラックアジアカップ2006

Malaysia Round & Thailand Round 日本総合優勝!

マレーシアラウンド



7月2日(日)

14時、成田からクアラルンプールへ向かい、バスにてイポーへ移動。

7月3日(月)

午後ベロドロームで自転車を組み立て、トレーニングを行なう。乾季のためカラッとしているが、かなり暑い。熱中症に気をつけ、水分をまめに取らせる。

7月4日(火)

午前中トレーニング。タイムを計ったが予想どおりに悪かった。まだまだ暑さ対策をせねばならない。石井が2コーナー手前でスリップして落車した。擦過傷は大した事無くホットした。

7月5日(水)

レース時間が9時からと15時からなので、15時30分よりトレーニング開始。岡が胃の痛みのため夕食を抜いた。22時に伏見と石橋が合流し、日本チームが全員集合した。

7月6日(木)

トレーニングは午前中に終了し、明日に備えた。



マレーシア個抜3位の黒木

石井はタイムが全然出ない。岡は、少し元気になった。佐伯が不調、暑さのせいかな？伏見、石橋が疲れ気味。

7月7日(金)

9時競技開始。女子

スプリント予選。岡2位、石井5位で予選通過。1/4Fも勝ち1/2Fへ進む。ケイリンも伏見1位、石橋3位で決勝へ進む。個人追抜の黒木は4位で3~4位決定戦に進み、微差で3位に入り、午前の部は終了した。

ホテルに帰り昼食を食べ2時に出発し、3時からのレースに挑む。スプリント1/2Fに進んだ女子。岡はストレートで負け3~4位で戦い、先行の指示に従い3位に入った。石井は先行の指示を守り、相手の反則で抜かれたが降格で1本先取。2本目も先行逃げ切り、決勝に進む。しかし、決勝では中国にストレートで負け2位となった。

ケイリンは石橋が2周先行、伏見が追走しゴールで追い込み、1~2位を独占した。

団体追抜は佐伯が不調で、黒木も疲れ気味で4位になった。明日の3~4位決定戦に期待したい。

女子ポイントは、スプリントの疲れもあったがゴールまで良く頑張った。今日も30 を越える暑さのなか皆良く走ったと思う。

7月8日(土)

雨のため、板張りバンクが乾くまで何もできず待つのみ。

11時30分に岡が500mTTにチャレンジ、38.575で2位に入った。スタートのテクニック指導がうまくいった。

続いて1kmTTには中村がチャレンジ。スタート良く飛び出したが後半スピードが落ち1:08.560で3位に終わった。

団体追抜は、台湾チームと3~4位決

定戦となり4:41.631の結果であったが、相手のミスに助けられ3位となった。

女子個人追抜に石井がチャレンジ。自分のペースを保ち4:26.830で4位。決定戦に駒を進めたが、追い抜かれて4位に終わった。

スプリントに期待の伏見と石橋が挑み、1位と4位で予選を通過した。10秒台を出したのは伏見と香港だけだった。10.706の伏見はケイリンの疲れも見せず、雨で6時間遅れのスケジュールの中、良く集中して走ったと思う。その後1/4F・1/2Fにストレート勝ちして明日の決勝に臨む。

石橋は、1/4Fで1対2で敗れ、5~8位決定戦に留まった。今日は、選手たちも時間の変更で精神的にいやな1日だったと思う。

7月9日(日)

9時から男子スプリント決勝。1対1の3本目、伏見が先行し逃げ切り優勝、3冠を達成した。

最後のポイントレースは、イポーの王様が観戦することになり10分遅れで始まった。前半は、池浦が積極的に動く。兼平のバンクもあったが、メカニック鬼原氏の冷静な対応でスムーズに復帰し、中盤から積極的になり1ラップアップに成功。後半、兼平は一人で逃げ池浦がコントロールし、ポイントを稼ぎ優勝した。この結果日本がマレーシアステージ総合優勝となった。

「親王牌が終わってのレースで疲れもあったし、ここの板張りバンクは軋むしスリップしたりで走りずらかったが、3種目優勝する事ができ良かった。また、世界を目指し頑張る。宜しくお願いします。(伏見)」「2度目の国際大会で、前回よりも走れたと



マレーシアケイリン1位伏見(中央)、2位石橋(左)

マレーシアチームスプリント優勝



思う。チームスプリントはプロ2人と走るので緊張したが、足を引っ張らずに優勝でき福田監督にメダルを見せることができ嬉しかった。この経験をいかし国内、国際試合で上を目指し頑張りたい。(中村)
「初めての海外試合で緊張した。また250mバンクと板張りも初めてのなので大変だったが乗り切ることができた。団体追抜・ポイントレースを走ったが、黒木先輩以外初対面の人がばかりで心配だったが、メダルが取れて良かった。ポイントのアシストも

始めてでしたが指示どおり走れ兼平が優勝でき嬉しかった。(池浦)

「この大会に来て精神的に強くなれました。今の自分の力を最大限に発揮できたと思います。次も頑張ります。(石井)

「スタッフの方々のサポートのお陰で競技に集中でき、メダルを取ることが出来ました。監督の適切な指導でスタートのポイントがつかめたのは、次につながります。しかし目標タイムに届いていないので日本に帰ったらもっと練習します。有り難う御座いました。(岡)

7月10日(月)

マレーシアよりタイへ移動

7月11日(火)

自転車組立。午前中雨のため午後練習周回。

7月12日(水)

団体追抜は3~4位決定戦で破れ、4位に終わる。チームスプリントは伏見の代わりに黒木を起用。予選4位通過し決定戦で中村のギヤを変更させて成功し3位を獲得した。

女子500mは石井を出したが、メダルを獲得できなかった。スプリントは岡

と石井で3~4位決定戦になり、岡が2本先取しメダルを獲得。

兼平は、個人追抜に出場し、予選で自己新を出し3~4位決定戦に進んだ。しかし突然のスコールで以降中止になり、明日8時から残りのレースをする事になった。

7月13日(木)

最終日、男子は個人追抜で兼平が4位。ケイリンは石橋2位、黒木3位。スプリントは石橋が1位、中村が2位。マディソンは兼平・中村組で出場。途中中村が落車するアクシデントに見舞われたが、残り周回兼平が走りきり見事優勝した。

女子ではポイントレースで石井が3位、スプリントでは岡が3位に入った。

今回のアジアカップで日本チームは総合優勝し、3度目のアジアカップを手にした。チームを支えてくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。

(監督 福田 公生)



タイラウンド 団抜4位の日本チーム



タイラウンド 女子スプリント3位の岡(左)と4位の石井



タイラウンド チームスプリント3位の日本チーム



タイラウンド 1kmTT 4位の中村



タイの応援団



[競技結果]

トラック・アジアカップ 2006 レーシングアラウンド

(2006/7/7-9 レーシング・体 - 250m)

男子スプリント

1	伏見 俊昭	JPN
2	WONG Kin Chung	HKG
3	ZHANG Wen Liang	CHN
5	石橋慎太郎	JPN

男子1kmタイムトライアル

1	MOHAMED HAFIZ Mohamed Sufiar	MAS	1:06.551
2	HAN Tao	CHN	1:06.686
3	中村 健志	JPN	1:08.560

男子ケイリン

1	伏見 俊昭	JPN
2	石橋慎太郎	JPN
3	WONG Kin Chung	HKG

男子4km個人追抜競走

1	MOHD FAUZAN Ahmad Lutfi	MAS	4:53.48
2	HUANG Hasin Hua	TPE	4:57.57
3	黒木 裕介	JPN	5:00.89

男子ホィントレース

1	兼平 純	JPN	53p
2	LI Wei	CHN	43p
3	MOHD JASMIN Ruslan	MAS	34p
4	池浦 敏彦	JPN	9p

男子チームスプリント

1	日本 伏見・石橋・中村	47.83
2	Malaysia	49.01
3	Thailand	49.41

男子4km団体追抜競走

1	China	4:25.653
2	Malaysia	4:30.119
3	日本 黒木・池浦・兼平・佐伯	4:41.613

女子500mタイムトライアル

1	ZHENG Lulu	CHN	36.678
---	------------	-----	--------

2	岡 希美	JPN	38.575
3	BITBIT Baby Marites	PHI	39.516

女子スプリント

1	ZHENG Lulu	CHN
2	石井 寛子	JPN
3	岡 希美	JPN

女子3km個人追抜競走

1	MUZIZAH Uyun	INA	
2	URACCA Leow Hoay Sim	MAS	OVT
3	BITBIT Baby Marites	PHI	
4	石井 寛子	JPN	OVT

女子ホィントレース

1	NOOR AZIAN Alias	MAS	16p
2	URACCA Leow Hoay Sim	MAS	15p
3	MUZIZAH Uyun	INA	12p
6	岡 希美	JPN	2p
7	石井 寛子	JPN	

レーシングアラウンド 国別総合

1	日本	98p
2	Malaysia	80p
3	China	54p

トラック・アジアカップ 2006 タイラウンド

(2006/7/12-13 タイ・バンコク 333m)

男子スプリント

1	石橋慎太郎	JPN
2	中村 健志	JPN
3	WONG Kin Chung	HKG

男子1kmタイムトライアル

1	HAN Tao	CHN	1:07.866
2	WONG Kin Chung	HKG	1:08.673
3	Ruslan Mohd Jasmin	MAS	1:09.355
4	中村 健志	JPN	1:09.459

男子ケイリン

1	WONG Kin Chung	HKG
---	----------------	-----

2	石橋慎太郎	JPN
3	黒木 裕介	JPN

男子4km個人追抜競走

1	Ahmad Lutfi Mohd Fauzen	MAS	4:50.518
2	LI Wei	CHN	4:52.772
3	Pitthayathonlert Tanet	THA	4:58.653
4	兼平 純	JPN	5:02.640

男子ホィントレース

1	Boonratanathanakom Thurakit	THA	80p
2	池浦 敏彦	JPN	72p
3	Curtan Paterno jr.	PHI	23p
	佐伯 翔	JPN	DNF

男子マティン

1	日本 中村・兼平	25p
2	Malaysia	19p
3	Philippines	14p

男子チームスプリント

1	Malaysia	1:04.482
2	China	1:05.953
3	日本 石橋・中村・黒木	1:06.064

男子4km団体追抜競走

1	China	4:30.325
2	Malaysia	4:32.057
3	Philippines	4:43.046
4	日本 黒木・池浦・兼平・佐伯	4:55.638

女子500mタイムトライアル

1	Zheng Lulu	CHN	37.358
2	Maneephan Jutatip	THA	37.758
3	Uyun Muzizah	INA	37.958
6	石井 寛子	JPN	42.010

女子スプリント

1	Zheng Lulu	CHN
2	Maneephan Jutatip	THA
3	岡 希美	JPN
4	石井 寛子	JPN

女子3km個人追抜競走

1	Uyun Muzizah	INA	4:03.990
2	Nontasin Chanpeng	THA	4:08.770
3	岡 希美	JPN	4:16.615
4	Bitbit Baby Mrites	PHI	4:18.352

女子ホィントレース

1	Kamfoo Banna	THA	65p
2	Nontasin Chanpeng	THA	56p
3	石井 寛子	JPN	27p
6	岡 希美	JPN	6p

タイラウンド 国別総合

1	日本
---	----

アジアカップ 2戦総合成績

1	日本
---	----

インフォメーション コーナー

読者プレゼント

2006年全日本選手権チャンピオン(個人ロード、個人TT)に輝いた別府史之(ディスカバリーチャンネル)のサイン色紙を抽選で5名の方にプレゼントします。ご希望方は編集事務局までハガキでお申込み下さい。

2008年北京オリンピックの参加資格付与制度について

2008年北京オリンピックの自転車競技(トラック、ロード、MTB、BMX)の参加資格付与制度についてUCIより詳細な制度の発表がありました。和訳版をJCFサイト(<http://www.jcf.or.jp>)の競技規則のページにPDFファイル形式でアップしましたのでお知らせします。

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第45回全日本学生選手権チーフロードレース大会 (2006/7/8 秋田・大潟村リゾートライン)

チーフロードレース(90km)

- 1 明治大学 立里・根本・守澤・湯浅 2:00:54.27
- 2 日本大学 秋山・松村・我妻・大庭 2:01:59.10
- 3 中央大学 長江・渡辺・渡辺・飯塚 2:02:36.56
- 4 鹿屋体大 中島・三瀬・村上・片山 2:03:41.39
- 5 立命館大 辻・石浦・河原崎・石井 2:05:05.49
- 6 順天堂大 田中・村出・辻・土屋 2:05:25.41
- 7 法政大学 須崎・大村・島田・三浦 2:06:58.50
- 8 東北学院 姥名・山田・櫻井・中村 2:09:21.05
- 9 朝日大学 菊池・柴田・増田・井関 2:10:20.51
- 10 中京大学 池本・岩本・南・浅井 2:12:18.85

第18回全日本学生個人ロードレース大会 (2006/7/9 秋田・大潟村リゾートライン)

男子個人ロードレース(30km)

- 1 村上 純平 山形 鹿屋体大 41:59.471
- 2 根本 哲吏 秋田 明治大学 42:12.881
- 3 姥名 洋平 青森 東北学院 42:34.725
- 4 角 令央奈 兵庫 鹿屋体大 42:45.443
- 5 辻本 翔太 千葉 順天堂大 42:53.065
- 6 土屋 壮登 埼玉 順天堂大 42:56.024
- 7 太田 貴明 京都 京都産大 43:11.442
- 8 大村 寛 鹿児島 法政大学 43:21.022
- 9 古山 智之 岐阜 京都産大 43:38.069
- 10 三瀬 光誠 山形 鹿屋体大 43:43.788

女子個人ロードレース(15km)

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学 23:20.906
- 2 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体大 23:51.714
- 3 小淵 千恵 群馬 順天堂大 24:04.664
- 4 日暮 千早 鹿児島 鹿屋体大 24:37.498
- 5 森 智恵美 京都 順天堂大 25:39.865
- 6 古川ひとみ 新潟 立教大学 26:25.982
- 7 古川真理江 長野 信州大学 27:53.779
- 8 中根布美子 東京 東京工大 32:50.535

第3回パルカカップ室内自転車競技大会 (2006/7/8-9 東京・BumB東京)

サイクルサッカー

- 1 ヌルム東京 都築 勝巳・松田 鋼
- 2 ビンクス 大阪 宮本 武彦・木下 直也
- 3 神戸パルカ 芦田 朋宏・宮川 廣平
- 4 舞馬 大野 和俊・芦塚 正博
- 5 チームジ 森 茂史・黒田 岳
- 6 大阪大学A 長井 勝彦・長岡 浩二
- 7 With M 畑 仁・平田 芳隆
- 8 アンニ京葉 有川 和英・河野十史弥

サイクルバイクユア女子シグナル

- 1 堀井 和美 269.24 pt
- 2 宮崎 沙織 243.36 pt
- 3 佐藤 風沙 238.42 pt

サイクルバイクユア男子シグナル

- 1 芦田 史朗 271.27 pt
- 2 佐浦 裕行 260.55 pt
- 3 芝山 耕輔 244.33 pt
- 4 竹中 誠 220.65 pt

ロード男子エリートナショナルチーム・フランス遠征

派遣日程 2006年7月17日～8月22日
 派遣場所 フランス・ツールーズ
 大会日程 7月22日 クリスタル・エナジー(UCI1.2)
 7月23日 トロフェ・デ・シャンピオン
 8月12日～15日 ミウットワンディ4連戦
(調整レース)8/4 Arreau, 8/5 Montech Nocture, 8/6 Tarascon, 8/7 Tris sur Bares, 8/8 PuyfEveque

選手団

監督 藤野 智一(ロード競技部会部会員)
 メカニック 神馬 有貴(ロード競技部会支援スタッフ)
 選手 飯島 誠(JPCA)・田代 恭崇(JPCA)
 別府 匠(JPCA)・畑中 勇介(東京)
 村山 規英(東京)・中島 康晴(福井)

2006年シクロクロス強化指定選手

<強化指定選手A>

EliteMen 辻浦 圭一(奈良)・小坂 正則(長野)
 U23 山本 幸平(北海道)・竹之内 悠(京都)
 藤岡 徹也(兵庫)・伊澤 優大(滋賀)
 EliteWomen 豊岡 英子(大阪)・田近 郁美(岐阜)
 荻島 美香(埼玉)

<強化指定選手B>

EliteMen 白石 真悟(大阪)・丸山 厚(長野)
 三船 雅彦(JPCA)・辻 善光(京都)
 EliteWomen 酒井 真清(大阪)・池田 桂子(大阪)
 狩俣けい子(大阪)

<強化指定選手C>

U23 石井 陽(京都)・飯塚 隆文(長野)
 EliteWomen 真下 正美(神奈川)

連盟の動き(7月上旬～7月下旬)

- 7月2日 アジアカップ日本代表選手団出発 於: マレーシア、タイ(帰国 14日)
- 3日 ツールド・イーストジャバ日本代表選手団出発 於: インドネシア(帰国 10日)
- 5日 トラック中距離強化合宿 於: 群馬・前橋(～6日)
- 15日 ツールド・ラビティピ日本代表選手団出発 於: カナダ(帰国 26日)
- 18日 平成18年度第3回強化委員会 於: 東京・自転車会館
- 27日 ジャパンカップ推進委員会・実行委員会 於: 栃木・宇都宮

訃報

神奈川県自転車競技連盟
 理事長 岡本満男氏におかれましては、7月6日ご逝去されました。ここに慎んでお知らせいたします。

JCF協賛スポンサー



シクリスムエコー No.131 2006年7月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>